

# くつろぎサロン通信

2010年12月22日 第5号  
発行 十和田市立中央病院内  
がん患者と家族の会事務局

## 第34回死の臨床研究会に参加して

去る11月6日、7日盛岡市において上記研究会年次大会が開催されました。患者会による交流会&高木慶子先生とマーフィー昌子さんを囲む茶和会“市民サロン”へ坂下会長はじめ3人で参加いたしました。岩手県内からは11団体、秋田県からは1団体の計13団体の集まりであり、盛岡市駅西口にあるマリオス18階の会場は熱気であふれていました。各患者会の活動内容が一目でわかるよう写真やポスターなどの展示物があり会員の方たちも会の歴史や会員の状況など熱心に紹介していました。我が“くつろぎサロン”では会報誌、例会ポスター、オリジナルのケア帽子と6月30日に行われた“こころがあたたかくなる語りの会”台本を展示したところ沢山の関心を集め、質問もいただき2年目の活動成果も手ごたえとして感じる事が出来ました。今回、参加する機会を得ることが出来、当会として他の患者会との交流ははじめてでありましたが近隣県の活動状況を知ることができ大変刺激的であったし有益な時間となったことは確かでした。

“がん”という病気と向き合い、一人で悩み他に目を向ける余裕がなかった時間を振り返り、また闘病に関する情報交換は意義深く、また語り合うことで大きな力を得られたことも貴重であり今後の活動に示唆をいただいたように思います。  
事務局

図書ボランティア便り



関心を集めたくつろぎ通信やケア帽子等



マーフィー昌子さんを囲んでの茶話会

## 薦沼めぐりで自信

副会長 宮崎 義久

### 活動を病院内から森へ林へ 自然の生命力で免疫力の回復

9月25日、宿の雨傘をさして遊歩道へ・・・ナラ、沢グルミ、ブナ、トチ、カエデの樹間を縫うように進む。“雨傘の絵柄が紅葉未だの森で初秋の絵”だ。ひとつひとつの沼に立ち寄り、互いの感想がにぎやかに交わされる。

“ブナの老木に聴診器を当てた時、水を吸い上げる音に生命の息吹を感じた”と話したら、さっそく、ブナの大木に抱きついて耳を当てるなど笑いのこだま～古木の幹にキノコの密生を発見して歓声！毒？食用？キノコ博士がいなかった。トチの実が遊歩道に散乱。昔貧しさからトチ餅にして食べた話へと発展した。行程の最後は薦沼の文化財？余材庵に立ち寄りこれは大町桂月の庵・・・ベランダからの瓢箪沼を眺め、しばし桂月の心にひたる。

広間で、熱いお茶をすすり昼食をとる。同じ弁当を食す笑顔やよした。食後は温泉へ、ここの温泉は全国に秘湯として知られる。なお市立病院職員東さんのガイド役に感謝。

声！勇気を持って参加した。雨の中落伍者もなく和気あいあい心癒され自信を得た。冒険とも思える試みだったが、またやりたいの声にやって良かったと安堵した。

桂月辞世の句 極楽へこゆる峠の一休み薦のいで湯に身をば休めて



樹間に映える雨傘と笑顔



日程を終え、ホッとして勢ぞろい

## 編集後記

あっという間に晩秋の色合いが濃くなりました。会員の方々から「暑かった夏が長すぎ、秋日和を楽しむことなく冬になってしまうね！」と聞かれるこの頃になりました。くつろぎサロンでは9月25日の薦沼めぐりと盛岡の“死の臨床研究会”の参加が、昨年とは変化してきた印象がありました。カレンダーもあと1枚、新しい年を迎えますがとにかく一歩ずつ前を向いて進めるようにしたいですね。

問い合わせ先 十和田市立中央病院 地域医療連携室

☎ 0176-23-5121 (内線2060) 新谷 明子